

令和元年度（第74回）文化庁芸術祭演劇部門（門西の部）大賞受賞  
臨場感あふれる大人向けの人形芝居

人形劇団クラルテ

おんなころしあぶらのぢごく

# 近松門左衛門 作「女殺油地獄」

作・近松門左衛門 脚色：吉田清治 演出・脚色（潤色）：ふじたあさや



あらすじ  
大坂本天満の油屋主人・河内屋徳兵衛は番頭あがり、主人の忘れ形見である与兵衛に対し常に遠慮がちであった。実の母・お沢は徳兵衛への氣遣いから、与兵衛に対し必要以上に厳しく接していた。そんな屈折した愛情の中、義父が厳しく叱らないのを使いこなし、新町の遊女に入れあげる放蕩三昧。それでも遊ぶ金に困った与兵衛は、義父の偽判を用いて金貸しから銀200匁（金4両）の金を借り受ける。夜が明ければ元金の5倍（金20両）の金を返済せねばならぬ日限に追い立てられ、お吉に急場を逃れるための無心をするが断られる。二進も三進も行かなくなった与兵衛はついに、お吉を惨殺。豊島屋の掛け金をうばう。何食わぬ顔でお吉の三十五日の供養に列席していた与兵衛だが、天井でネズミが暴れ、血潮に染まった証文が落ちてくる。その筆跡が証となり、与兵衛は直ちに召し取られる。

## 作品について

歌舞伎では、油まみれの中、与兵衛がお吉を殺害する「豊島屋油店の段」で終わるのが一般的であるが、クラルテは近松の原作に忠実に舞台化。

強盗殺人を犯した与兵衛が、その後も遊郭通いを続け、お吉の三十五日法要の豊島屋に何食わぬ顔で加わり、動かぬ証拠を突き付けられて、やっと観念し逮捕される「豊島屋の段まで上演」。これにより与兵衛という人物像がより深く浮かび上がる。

300年前とは思えない現代に通じる人間の身勝手さ、弱さが見えると同時に、人間が持っている情が悲しみをさそう。



借りた金の返済に詰まり、  
凄惨な殺しへと  
突っ走る  
“河内屋と兵衛”  
300年の時を経て、  
今なお変わらぬ  
孤独と狂気  
強烈な個性を持つ首と  
三面舞台が織りなす  
“人形”が  
“生命をもつ瞬間”



- と き 2022年4月9日(土)14:00開演 (13:30開場)  
と ころ 輝きホール (全席指定)  
チケット料金 前売 一般4,000円 U25 (25歳以下) 1,000円  
ゆめプラメイト3,500円 ※1会員2枚まで (セットチケット含む)  
当日 一般・ゆめプラメイト4,500円 U25 (25歳以下) 1,500円  
チケット発売日 第一次発売 (ゆめプラメイト限定) 2022年1月15日(土)  
第二次発売 (一般・チケットぴあ) 2022年1月22日(土)  
※電話申込みは各チケット発売日の翌日から  
チケット取扱い チケットぴあ [Pコード 509-848] ※前売一般のみ  
TEL 0570 (02) 9999 URL <http://t.pia.jp/>  
チケット注意事項 未就学児の入場はご遠慮ください  
主 催 NPOたけとよ・武豊町教育委員会